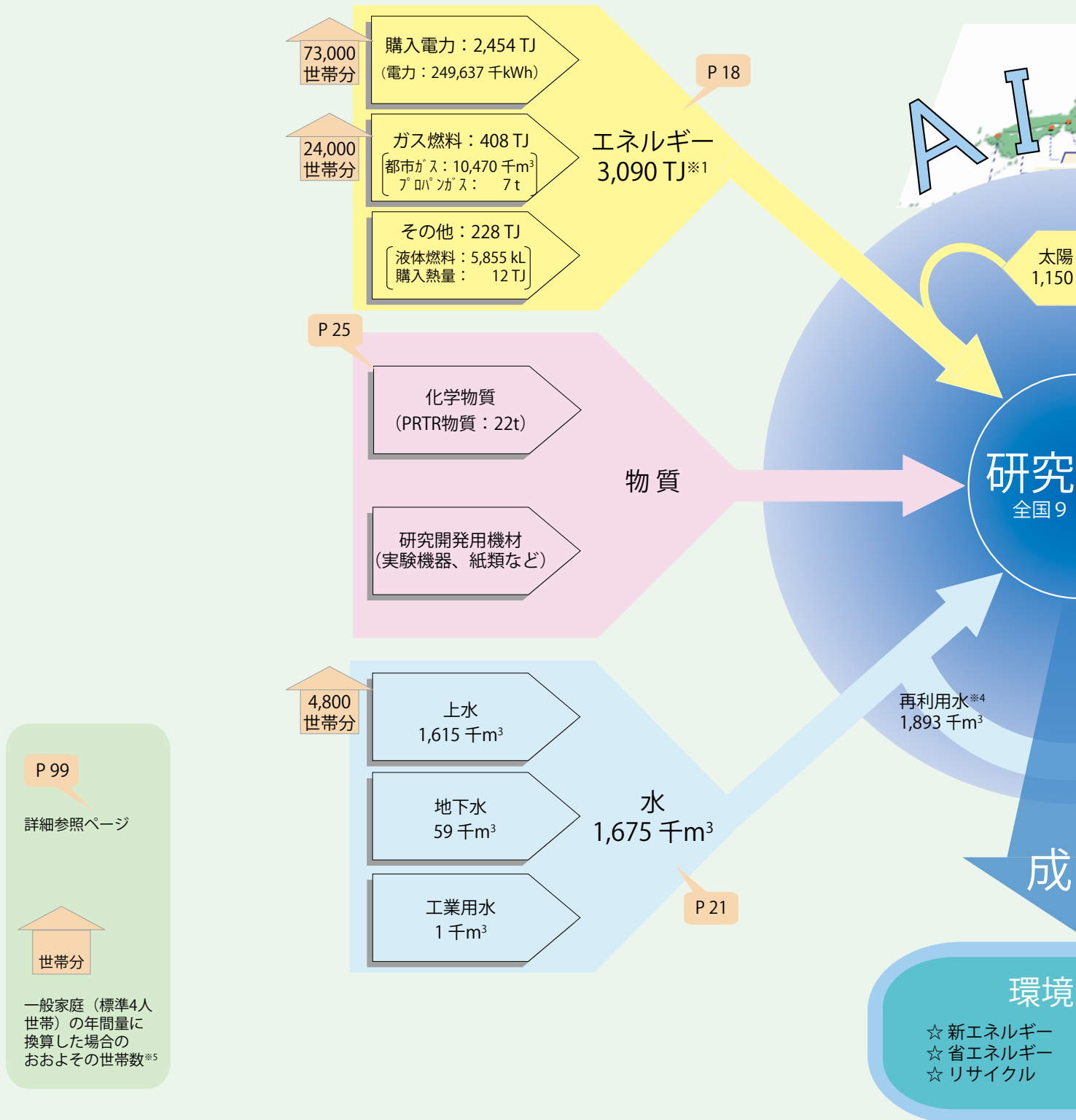


# 環境負荷の全体像

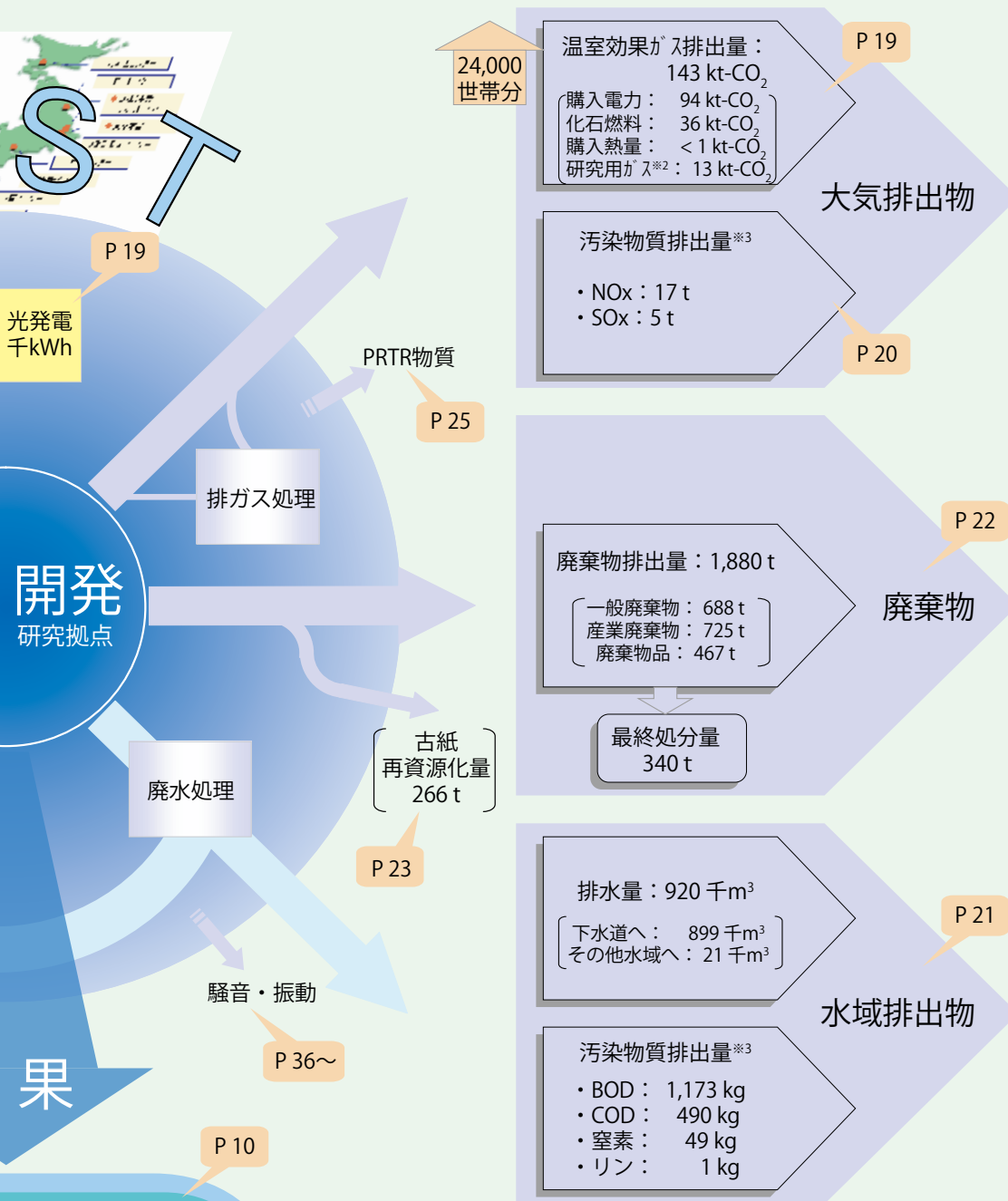
事業活動により生じる環境負荷の状況を把握することは、環境保全に配慮した活動を行い、環境負荷の低減を図る上で重要で

す。産総研の活動に関わる、エネルギー、水および物質の投入と排出による環境負荷の状況は、下図のようになります。



環境に負荷を与える一方、産総研は多くの技術を研究開発し、成果を広く発信して社会に貢献しています。環境に関しても持続的発展可能な循環型社会の構築を目指

し、環境の浄化・修復技術やエネルギー技術など、環境問題の解決に貢献する技術の研究開発を行っています。



※1 J (ジュール) はエネルギー量の単位で、1Jは約0.24cal  
1TJ (テラジュール) は1Jの1兆倍

※2 メタン、フロン、六フッ化硫黄などの研究に用いるガス

※3 測定を実施した研究拠点における排出量の合計 (各研究拠点の実施状況は、研究拠点データ編を参照) 排出量は、排出口での測定濃度の年平均に、ガスまたは排水の年間総量を乗じて算出

※4 研究所内で廃水処理した再利用水の循環積算量

※5 換算に用いた一般家庭の使用量または排出量は以下のとおりです。  
 電力：3,400kWh/年  
 ガス：435m<sup>3</sup>/年  
 水道：230L/人・日  
 CO<sub>2</sub>：6t/年